

# NOTICIAS DE S. PAULO

(Primeiro Diario Nipponico Publicado no Brasil)

(1) No. 1,371

Sabado 11 de Dezembro de 1937

er. M. Kobayashi  
水林 美登利  
R. Galvão Bueno, 407



聖市アッセンブレア街  
郵函二七六五  
發行人 香山六郎  
講讀料 一年三〇銭  
廣告料 一段七二銭

NOTICIAS DE S. PAULO  
Caixa, 2165 - fone, 2-3653  
R. ASSEMBLÉA, 16  
S. Paulo - Brasil

## 我砲爆擊熾烈を極め 地軸も裂けん大激戦

十日午後一時半總攻撃開始

### 支那軍も死物狂ひの抵抗

(上海十日) 外人方面の情報に依れば南京衛戍司令唐生智は昨九日午后二時各國大使館に對して殘留外人の逃避撤退を要求、午后五時に至るや下關に通づる城門を堅く閉し城内と城外とを連絡する電信、電話を一切絶ち斯くて城内十万の敵は完全に籠城状態に陥つた。

▲南京衛戍司令唐生智は昨九日、南京市長馬超俊を始め軍事參謀等を集めて交戦か否かの協議を行つたと謂はれるがす日朝來、城内の支那軍は益々防備を強化し城壁に據つて死物狂ひの抵抗を繼續しつゝあり之の情勢より見て敵は籠城を決意し最後の一戦を交へんとするもの如く南京の運命も愈々最後の段階に近づいて來た。▲十日早朝南京城は完全に我包圍下に陥り紫金山(ホー山・牛首山・青龍山等城門四圍の要塞、山々には朝靄の中に日章旗翻ひるがへり南京城を壓してゐる。

▲(南京前線十日) 我軍の大校場飛行場及び紫金山占領又南方諸部隊も城壁近く迫り今や南京は三方包囲されて袋の鼠となり僅か長江方面の水路に血路を遺すのみとなつた。▲南京郊外大校場にて十日) 脇坂、井佐、藤井、人見各部隊は目下(十日午前九時現在) 南京城内の敵を激烈なる戦闘を交へ、あり砲聲殿々として凄愴を極めてゐる。▲(句容十日) 大野、助川、野田、片桐等各部隊は九日夜折からの月明を利用して夜襲を以て紫金山の天險を占領、同山の背後を迂回して東北方より太平門に肉薄しつゝある。

▲(大校場十日) 我飛行隊は十日午前八時頃銀翼を連ねて南京上空に飛来し市内外に渡つて巨弾の雨を降らせた、地軸を搖るがす爆裂の音、轟々たる爆音、耳を聾する僅り、その間彼我の銃砲聲は十時頃に到り益々酷くなつた。▲(高橋門十日) 昨日夜來井佐、藤井兩部隊の活躍は物頃南京北方より雪崩れ込む敵敗残兵及び紫金山山麓より敗走し來る敵に對し殆んど殲滅的打撃を與へた。▲(麟麟門十日) 大野、助川、野田、片桐等の各部隊は猛攻を以て九日夜紫金山を手中に收め中山陵、明孝陵、レイコク寺等東洋文化の標識をその保護下に確保した。▲(高橋門にて十日) 敵の猛烈な抵抗を排して南京東側の城壁に迫り着いた脇坂、井佐、藤井の各部隊は砲兵部隊の掩護砲撃の中に昨九日夜來頑強に抵抗する敵と交戦中で城壁から撃ち下す十字砲火を浴び乍ら奮戦、野中砲兵部隊は自下光華門を爆破

(東京ラジオ十日) 松井最高指揮官は九日正午南京衛戍司令唐生智免て飛行機より勸降状を投下、十日正午を以て期限とし武士の情、暫し砲火の手を緩め敵の出方を威嚇してゐる。▲(上海十日) 我降服勸告に回答すべき敵の軍使は遂に來らず我南京攻略軍は陸海協同、空陸相呼應し十日午後一時半全力を擲げて南京城攻略總攻撃の火蓋を切つた。攻撃前進の歴史的命令を受けた我大野、助川、片桐、野田各部隊は紫金山を守り和平門に向ひ臨攻、井佐、藤井、人見を加ふれば陸海兩飛行隊の精銳は

## 我が勸降に敵應せず 總攻撃の火蓋を切る

の各部隊は中山門、光華門正面に肉薄、又杭州灣上陸を以て期限とし武士の情、暫し砲火の手を緩め敵の出方を威嚇してゐる。

▲(上海十日) 我降服勸告に回答すべき敵の軍使は遂に來らず我南京攻略軍は陸海協同、空陸相呼應し十日午後一時半全力を擲げて南京城攻略總攻撃の火蓋を切つた。攻撃前進の歴史的命令を受けた我大野、助川、片桐、野田各部隊は紫金山を守り和平門に向ひ臨攻、井佐、藤井、人見を加ふれば陸海兩飛行隊の精銳は

敵陣より撃出す死物狂ひの高射砲彈の彈幕を潜りつゝ爆撃掃射を以つて地上攻撃を敢行、城壁を抉んで彼

山野に満々一大激戦を展開してゐる

我最前線は銃砲爆音に沸騰轟音

彈の彈幕を潜りつゝ爆撃掃射を以つて地上攻撃を敢行、城壁を抉んで彼

敵陣より撃出す死物狂ひの高射砲

彈の彈幕を潜りつゝ爆撃掃射を以つて地上攻撃を敢行、城壁を抉んで彼

敵陣より撃出す





